

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。2025年MLBでも屈指の歴史と人気を誇る両球団が来日して行われた今季開幕戦「東京シリーズ」は空前の盛り上がりを見せました。1番DH、その打席を心待ちにするファンの期待に見事に応えた。15日巨人戦 戸郷翔征氏

から第2打席低めのカーブをとらえてライトスタンド中段へツーランホームラン。「ファンが求めているところでしっかり結果を残せるのがショウヘイの努力を積み重ねている優秀なところだと思う。」とマイケル・コンフォートは話していました。“日々の努力”大切な事であり忘れがちな事だと感じました。寒暖さだまらぬ折りお体を大切になさってください。

サンライズの物語

自分の最期の時間を伝えられても——

生きることに目を向ける物語



その方は、癌末期と診断され自宅へ戻った方でした。趣味は海外旅行で元気になったら、また旅行へ行きたいと言いつづけていたのです。

余命宣告をされていたのにも関わらず希望を捨てることがなかったのです。

訪問診療や訪問看護等のサービスを受けながら低空飛行（小康状態）を続けていたのですが、そんな日の朝ヘルパーが訪問していた時は受け答えがあったらしいのですが少しずつ意識が薄れ旅立ってしまったのです。

自分の最期の時間を伝えられても、生きる事に目を向けた最後でした。

「希望」生きる糧になる言葉です。

「アンパンマン」の作者“やなせたかし氏”が作詞されたテーマ曲を思い出します。ご自身の戦争体験に基づいた思いが込められている歌詞です。

“そうだ、うれしいんだ 生きるよろこび

たとえ むねのきずがいたんでも

なんのためにうまれて なにをしていきるのか

こたえられないなんて そんなのはいやだ”

生きる事は闘いです。そんな境遇に希望を見つける事は容易にはできないと思います。

「そんな生き方をしていきたい」と自分の生き方に照らし合わせてしまいました。



誕生日

誕生日カードを差し上げて皆さんで誕生日の歌を歌い、おやつにパンケーキでお祝いしました。

NEWS 今月のニュース

あったかい「家庭の味」独居高齢者に届けて30年 仙台・ふたばの会の弁当宅配サービス、次世代にバトンタッチ

仙台市太白区の主婦らが30年間、1人暮らしの高齢者に手作り弁当を届けてきたNPO「食事サービスふたばの会」が今月末、代替わりする。メンバーの高齢化で継続が危ぶまれたが、若い後継者が見つかり、活動は次世代へ引き継がれる。「お待たせしました」。19日午前、代表の市橋章子さん（84）が利用者宅を巡り、温かい弁当を手渡した。この日の献立は焼きサケ、ハウレンソウのごまあえ、カボチャの煮物など。10年来利用する稲田学さん（89）は「まるで妻が作ったような味」と笑顔を見

せる。宅配は週6日、昼か夜のいずれか。独り暮らしの佐々木直美さん（77）も「毎日の幸せと安心につながる」と心待ちにする。ふたばの会は、主婦ら29人がボランティアで運営。市から借りた空き家を拠点に、買い出し・調理・宅配を担い、太白区内の高齢者114人に弁当を届ける。活動は1995年に地域の主婦の「お茶のみ」がきっかけで始まり、弁当の評判は口コミで広がった。

（中略）多くの担い手が80歳を超え、市橋さんは解散を決断したが、昨年9月に看護師の小川彩乃さん（35）が「30年続いたものを絶やしたくない」と跡を継ぐと決意。知人の管理栄養士や作業療法士ら20～40代の仲間10人を新たに呼び込んだ。小川

さんは訪問看護の経験もあり、「介護保険の支援の網に入らない地域の高齢者を支えたい」と意欲を見せる。今月末で70～80代の8人が引退するが、市橋さんは「本当にうれしい」と目を細め、「弁当を待つ高齢者に、これからも温かい食事を届けてほしい」と願っている。



温かい弁当を利用者（左）に手渡す市橋さん

<川北新報社 2025/3/24（月）>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>